KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立ヘッジトリマー
HT1500

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立ヘッジトリマーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・このヘッジトリマーは、枝の直径が６mm以下の生垣と植込の剪定、刈込などの作業が幅広く容易にできる、小型軽量、高性能２サイクルエンジンが付いた機械です。

・このヘッジトリマーを使用する場合、この取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。

・ヘッジトリマーを改造してはいけません。

・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 4
正しい作業のために 5
　作業者の体調 5
　保護具 6
操作方法 7
　燃料の取扱い 7
　エンジンの始動と停止 8
　基本的な作業方法 9
　作業上の注意 10
点検・整備 11
　整備の目安 11
　点検要領 11
　刈刃の手入れ 13
　キャブレタの調整 13
故障診断と対策 14
保管 14
　長期保管（60 日間以上）..... 14
仕様 15

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

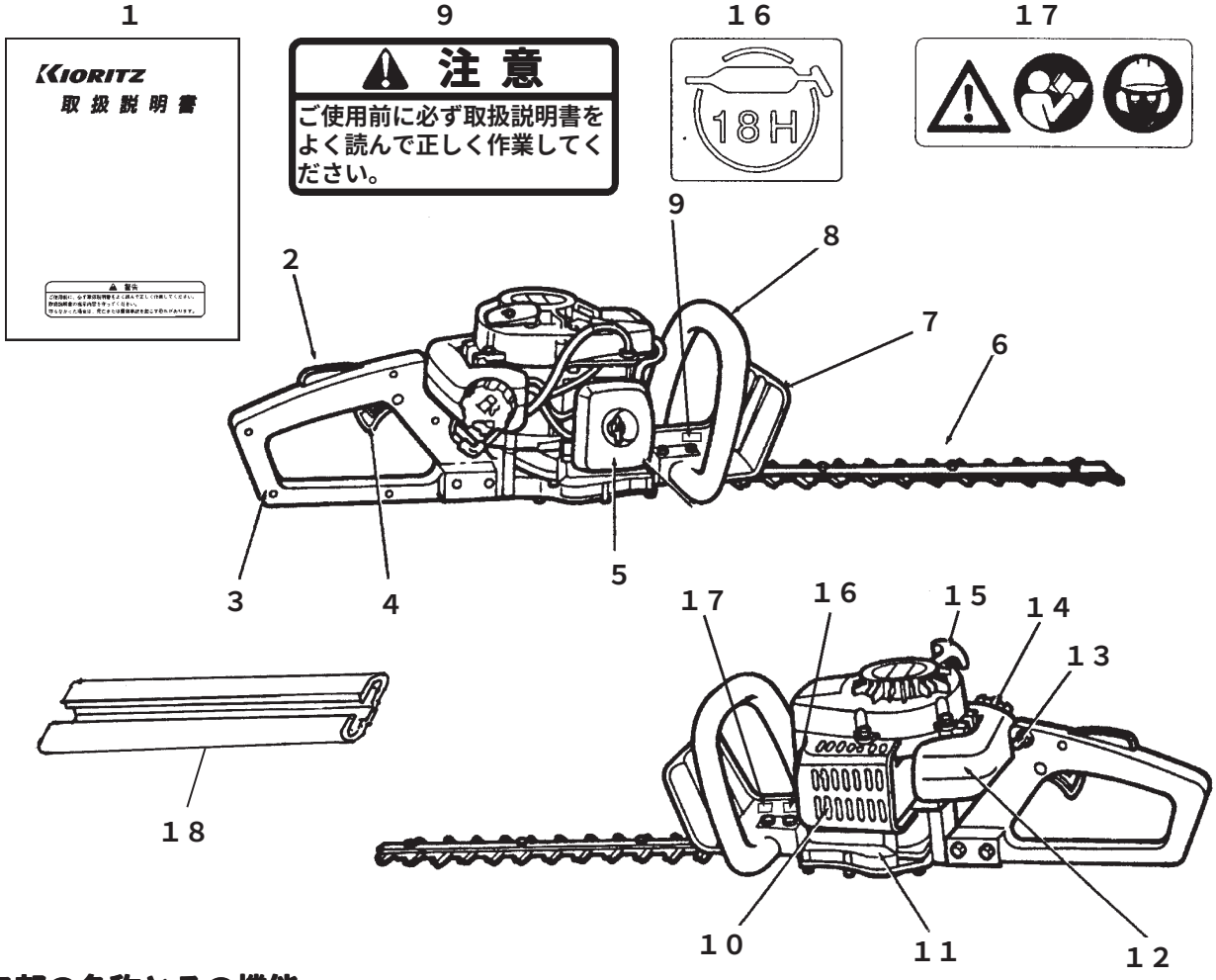
重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- **この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示マーク」のラベルが貼付してあります。ご使用前にマークの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。**

警告表示マーク	
 使用前に取扱説明書を必ず読み理解すること。	
 作業中は、目や耳、顔、頭部の保護具を必ず着用すること。	

各 部 の 名 称



各部の名称とその機能

１．	取扱説明書	―― 機械をお求めになったとき必ず付いています。機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．	スロットルロックアウト	―― スロットルレバーを誤って引かないように、スロットルロックアウトを押さなければ、スロットルレバーは引けないようになっています。
３．	後ハンドル	―― エンジンのスロットル側のハンドルです。
４．	スロットルレバー	―― エンジン回転数を調節するためのレバーです。
５．	エアクリーナカバー	―― エアフィルタを防護するカバーです。
６．	刈刃	―― 生垣・植込の剪定刈込みに使用する刈刃です。
７．	フロントハンドガード	―― 前ハンドルと刈刃の間にあり、前ハンドルから手が滑っても刈刃に手が触れるのを防ぎます。
８．	前ハンドル	―― 刈刃の上に付いた刈取作業用のハンドルです。
９．	注意ラベル	―― 取扱説明書を読むことを注意するラベル。
１０．	マフラカバー	―― 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
１１．	ギヤケース	―― 動力を刈刃に伝達すると同時に、刈刃の組付部ともなります。
１２．	燃料タンク	―― 燃料を入れる容器です。
１３．	ストップスイッチ	―― エンジンを停止するときのスイッチです。
１４．	燃料タンクキャップ	―― 燃料タンクを密閉するふたです。
１５．	スタータグリップ	―― エンジンを始動するときに使用します。
１６．	給油ラベル	―― １８時間毎にグリースを給油のこと。
１７．	警告表示ラベル	―― ３ページの「警告表示マークの意味」を参照してください。
１８．	刈刃カバー	―― 機械の持ち運び、保管をするときに使用するカバーです。

正しい作業のために

⚠ 注　意

・機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
・夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

⚠ 注　意

・労働省の通達により、一日の使用時間は２時間以内、連続作業時間はおおむね３０分以内にしてください。連続作業後には５分以上の休止時間を取ってください。
・蜂に気をつけて作業してください。

図１

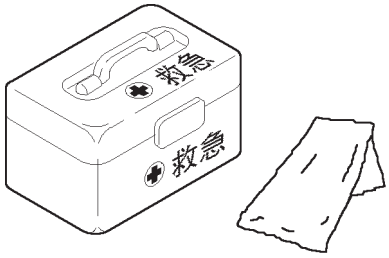


図２



痛い、感覚がない？
医師の診察を受けること

図３



救急箱　　タオル、てぬぐい

作業者の体調

・ 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、機械の使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
・ 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
・ 身体を冷やさないようにしてください。
特に手首や手指は保温に心掛けてください。

振動と冷え

機械を操作する人の体質によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。症状の現われる限度が未解明であるため、特に末梢部は温かく保ってください。

反復作業による傷害

指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起こるとされています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。定期的に休息を取ってください。

ケガへの備え

・ 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
・ 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図１

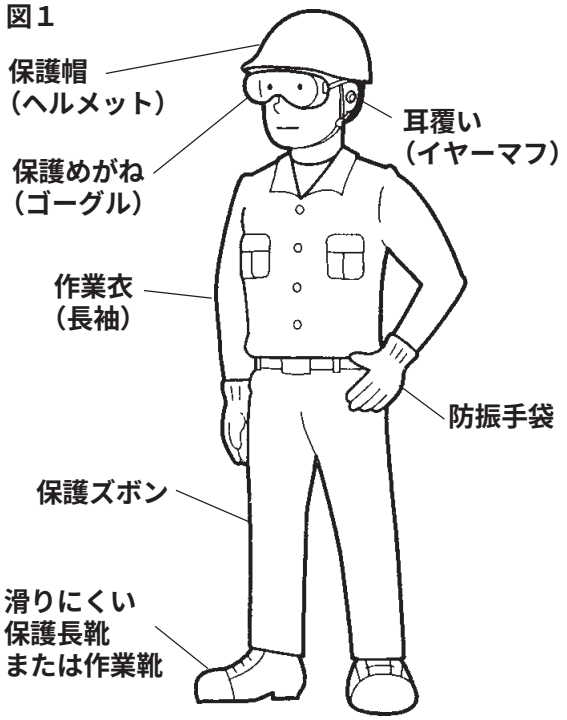


図２

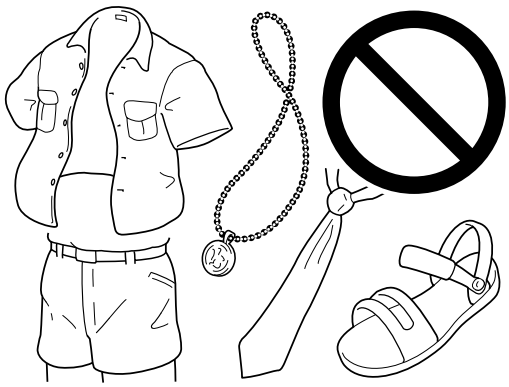
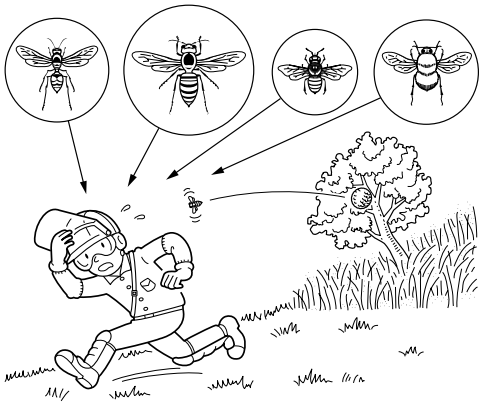


図３　アシナガバチ　スズメバチ　ミツバチ　マルハナバチ



保護具

身体を保護する衣服

身体に合った作業衣（長袖）を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、作業衣のすそはズボンに入れること。袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械や雑草に絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。髪の毛は肩より上でまとめること。

目の保護

この機械を使用する人は、刈刃から飛んで来る物に対してだけでなく、空中のホコリや、種、花粉などから目を保護するため、保護めがね（ゴーグル）を付けなければなりません。
日常、めがねを使用している人も、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）を付けてください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。
耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

頭部の保護

頭上の木の枝や、落下物の危険性に対して、保護帽（ヘルメット）を使用し頭部を保護してください。

手の保護

防振手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

滑りにくい丈夫な保護長靴か、滑りにくい作業靴を着用してください。つま先のあいた靴、サンダルやはだしで作業しないでください。

身体の保護のためのその他の事項

- 蜂が近づいて来たら、速やかに危険区域から遠ざかること。蜂は頭部や顔をねらって来るので、防蜂網は効果があります。特に蜂アレルギーの人は必ず着用し、防護手袋なども使用します。
- アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、薬局などで売っている使い捨ての防塵マスクを付け、アレルギーを起こす花粉などを極力吸い込まないようにしてください。

操　作　方　法

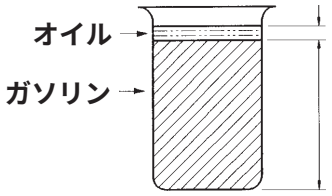
⚠ 警　告

・引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
・エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
・作業中、万一、エンジンから発火または発煙したら、まず身体から機械を離し、身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１



ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
４	８０	１６０
８	１６０	３２０
２０	４００	８００

図２

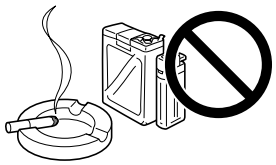


図３

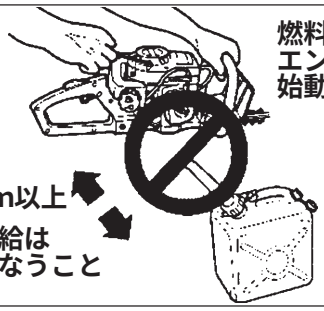
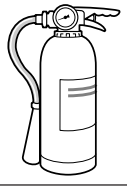


図４



シャベルまたは消火器を
用意する

燃料の取扱い

重　要

・混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
・燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
・ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

●本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
●燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。
・共立純正２サイクル専用オイル
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　　;[５０：１]
・２サイクルエンジンオイル
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ　;[２５：１]
●ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。
●燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
●燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
屋内では燃料を補給しないでください。
●エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
●必ず規定レベル以下に補給してください。
●燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
●補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。
●エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。（図３参照）
●燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。
燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。
●自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

⚠ 警　告

- エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
- 機械を障害物のない地面に置き、刈刃が地面や他の物に触れないことを確認してください。
- スロットルレバーを低速位置にしないでエンジンを始動すると、刈刃が動き始めます。エンジンの始動、停止時、作業を中断するとき、移動のときは、必ずスロットルレバーを低速の位置にしてください。

図１



図２

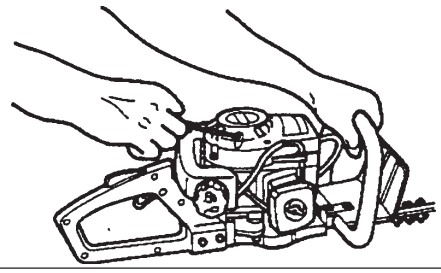


図３

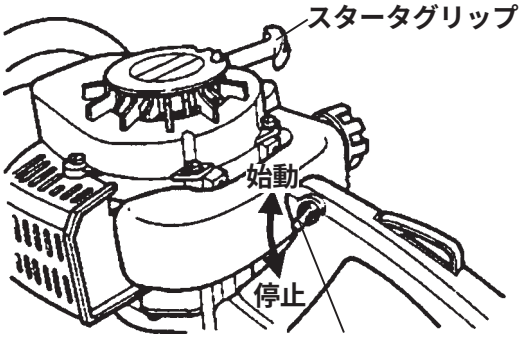
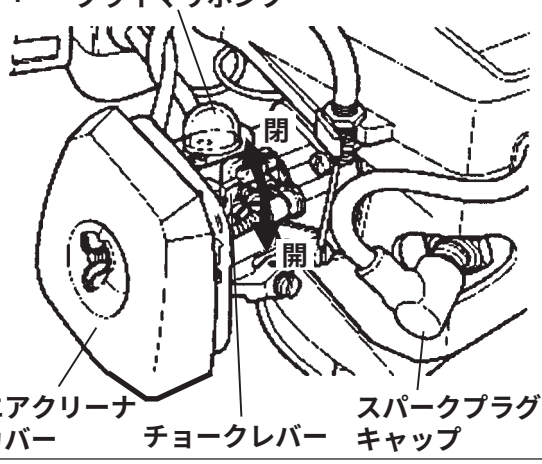


図４



エンジンの始動と停止

⚠ 注　意

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- エンジンを始動する前に刈刃をチェックしてください。ヒビの入った刈刃、破損している刈刃は、それがどんなに小さくても使用せず、新品と交換してください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
- 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
- エンジンの始動時、スロットルレバーを低速の位置にしておいても、刈刃が動く場合には１３ページを参照しながらキャブレタを再調整して使用してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

重　要

- 燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。
エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。
順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

冷えたエンジンの始動

1. ストップスイッチを「始動」の位置にします。(図３参照)
2. チョークレバーを「閉」の位置にして、チョークを閉じてください。(図４参照)
3. プライマリポンプを５～６回くり返し、押してください。(図４参照)
4. 左手で機械の前ハンドルをしっかり握り、右足で後ハンドルを押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
5. 爆発音がしたらチョークレバーを「開」にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを徐々に「開」に戻してください。
6. 始動したら低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

図１

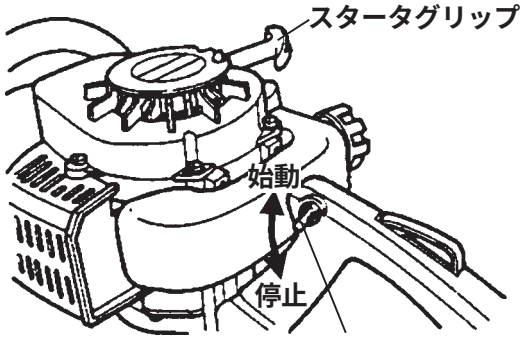
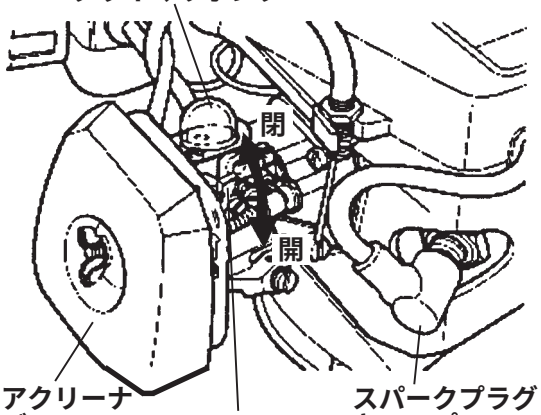


図２　プライマリホンプ



暖まっているエンジンの始動

1. ストップスイッチを「始動」の位置にします。(図1参照)
2. チョークレバーは「開」の位置にしてください。
3. 燃料タンクがカラでなければスタータグリップを引いてください。
4. 燃料タンクがカラの場合は、燃料補給をした後、プライマリポンプを５～６回くり返し押してください。（図２参照）
5. スタータグリップを引いてください。

エンジン停止

1. スロットルレバーを放し（低速の位置にし）、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。
2. ストップスイッチを「停止」の位置にしてください。（図１参照）
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチを停止の位置にしてエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。(図２参照)エンジンは失速し停止します。

※ ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図２参照）

基本的な作業方法

⚠ 警　告

刈刃に何かが絡まって動きが止まっても、エンジンは回転し続けます。この場合、必ずエンジンを停止し、絡まったものを取除いてください。
エンジンを停止せず刈刃に絡まっている物を取除くと刈刃が動き出し、ケガをすることがあります。

⚠ 注　意

常に両手でハンドルを握り、機械を使用してください。絶対に片手で使用しないでください。

重　要

- 本機は枝の直径が６mm以下の低木、あるいは生垣用に設計されています。
- 刈込みを開始するときには、エンジンを高速回転させてください。低い回転で刈込むと、クラッチが滑り、故障の原因となります。

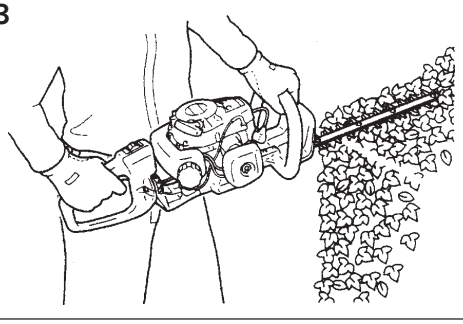
● エンジン始動後、スロットルレバーを握ると、エンジンの回転速度が上がり、刈刃が動き始めます。刈込む生け垣などの量によって回転速度を調節してください。

● ご購入後、はじめてこのヘッジトリマーを使用するときは、最初の２時間はエンジンの回転数をあまり上げないようにしてください。

● 生け垣などの上の方を刈るときは、刈刃を左右へ動かしながら刈込みます。刈刃をわずかに下へ向けながら動かすと、刈りそろえがうまくできます。（図３参照）

● 横側を刈るときは、刈刃を下から上へ動かしながら刈込むと、刈りそろえがうまくできます。

図３



⚠ 警　告

- 傷害を起こす危険がありますので作業中は危険ゾーンに誰も入らせないでください。危険ゾーンは作業者を中心に半径１５mの範囲です。
- 刈刃が動いているときには、絶対にハンドルから手を離さないでください。
- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。

重　要

刈取り作業を行なわないときはエンジンを空転させないでください。

図１

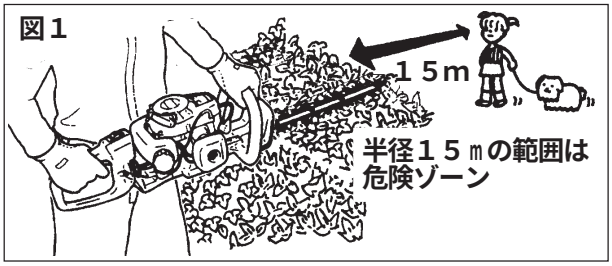


図２

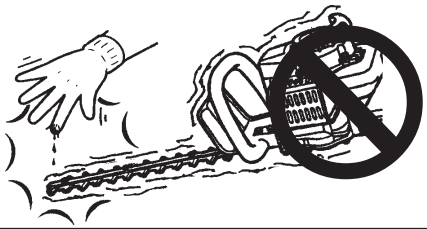


図３



図４

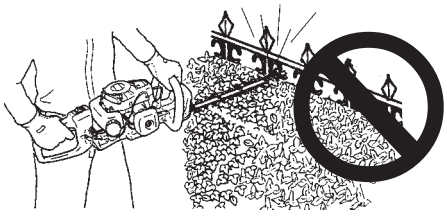


図５

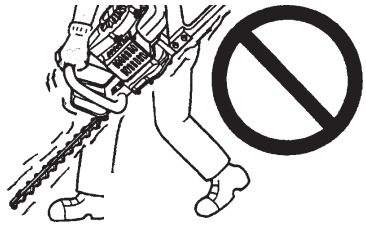


図６



作業上の注意

⚠ 注　意

- スロットルレバーを低速の位置にしても刈刃が動く場合は、すぐに使用を中止しキャブレタを再調整をしてください。（１３ページ参照）
- 作業中や機械を持ち運ぶときは、火傷などしないように高温部には充分注意してください。
- 作業を中断したり移動するときは、必ずエンジンを停止してください。また持ち運ぶときは刈刃カバーをしてください。

●機械を中心に半径１５mの範囲に子供や見物人、ペットがいないことを確認してください。
誰かが１５m以内に近づいてきたら、直ちにエンジンを停止し、刈刃を止めてください。

●作業を補助する人、共同作業をする人もお互いに合図のしかたを決めて、１５m以上離れて作業してください。
連絡用に、呼子（笛）を携帯することをおすすめします。

●視界が悪く、暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。雨降り、雨上がり、強風のとき、夜間には使用しないでください。

●機械が突然異常な振動をしたら、直ちにエンジンを停止してください。
突然の振動は、フライホイール、クラッチ、刈刃などの故障や、ネジのゆるみなどが原因です。
機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店に点検と修理を依頼してください。

●エンジンを停止したときは、機械を地面に降ろす前に刈刃が停止したことを確認してください。
エンジンが停止していても、刈刃が惰性で作動中はケガをすることがあります。（図２参照）

●エンジンが熱いうちは、火傷を防ぐため、マフラ（消音器）に身体を近づけないでください。
機械を持ち運ぶときは、必ずエンジンを停止し刈刃カバーを付けて移動してください。
マフラ（消音器）は熱くなっていますので、身体に接触させないよう身体から離して持ち運んでください。

●刈刃を木などに押し付けたりしないでください。（図３参照）
刈刃の動きと速度に合わせて操作してください。

●もし枝などが刈刃に絡まったら、必ずエンジンを停止してから、枝などを取除いてください。
針金や鉄板など硬いものを切らないようにしてください。故障や事故の原因となります。（図４参照）

●刈込みは刈刃を身体から外に向けて行なってください。
刈刃を自分の方に向けたり、身体に近づけたりしないでください。（図５参照）

●手をのばしたまま、あるいは足元が不安定な場所で機械を使用しないでください。
はしごや台の上で使用しないでください。（図６参照）

●もし刈刃が障害物にぶつかったり、正常に作動しない場合、エンジンを停止し刈刃に損傷がないか点検してください。

●火災の危険を防ぐため、エンジンとマフラから草、葉などを取除いてください。

点　検・整　備

⚠ 注意

・点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（１４ページ図１参照）
・発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

整備の目安

●製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整備の時期	整備個所	整備の内容
使用前	ネジ、ナット	損傷と締まり具合の目視検査
	エアフィルタ	清掃、交換（１１ページ参照）
	燃料フィルタ	清掃、交換（１１ページ参照）
	冷却風通路	清掃（１２ページ参照）
	刈刃	損傷、切れ味、締まり具合の確認
エンジン始動時	スロットルレバー	機能確認（８～９ページ参照）
	ストップスイッチ	機能確認（８～９ページ参照）
作業４時間毎	刈刃	オイル給油（１３ページ参照）
作業１８時間毎	ギヤケース	グリース注油（１２ページ参照）
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、必要な場合は交換（１２ページ参照）
長期保管（６０日間以上）	燃料タンク	燃料をカラにする（１４ページ参照）
	ネジ、ナット他	増し締めなど（１４ページ参照）

重要

・エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
・エンジン冷却風の入り口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますとエンジン焼き付きの原因となります。

図１

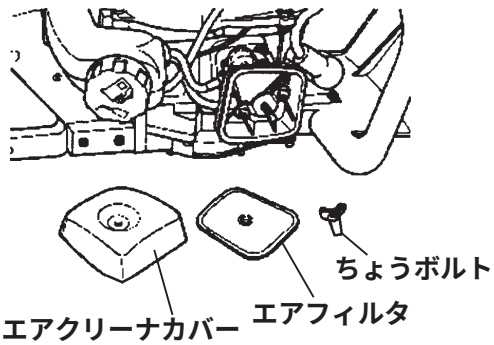
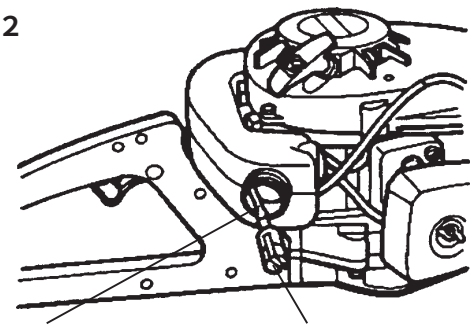


図２



点検要領

エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。
1. チョークレバーを「閉」の位置にし、エアクリーナカバーを開けて、エアフィルタを取外してください。
2. 汚れをブラシで落とすか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
3. エアフィルタを元の位置に取付け、エアクリーナカバーを取付けてください。

燃料フィルタの清掃

ご使用前に点検してください。（図２参照）
1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け、燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの給油口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。

図１

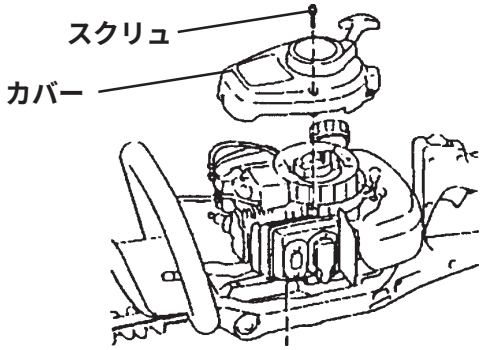


図２

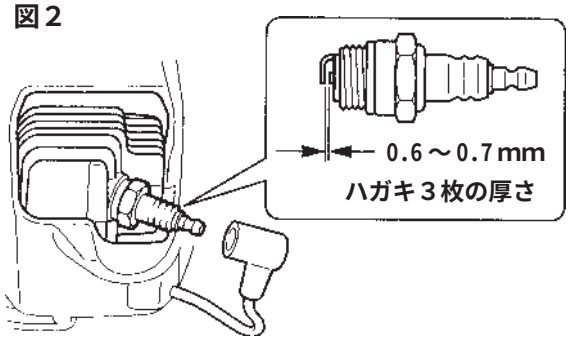


図３

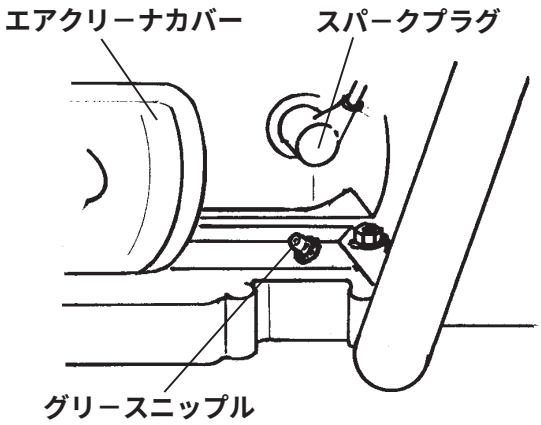
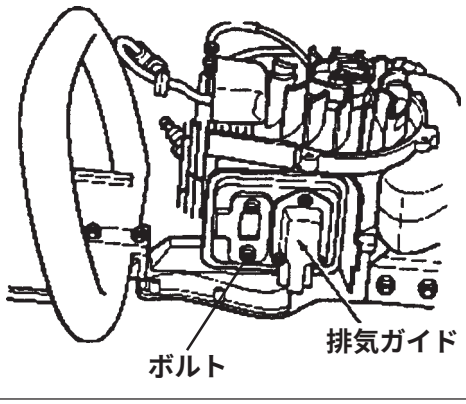


図４



燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

- ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
- 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
- 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
  また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

冷却装置の整備

ご使用前に点検してください。

1. カバーをていねいに外し、シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。（図１参照）
2. カバーを取付けてください。

スパークプラグの点検

月に一度は点検してください。

1. 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2. 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７ mm＝ハガキ３枚分の厚さ）、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。（図２参照）
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
   参考：締付けトルクは１５～１７N・m
   （１５０～１７０ kgf・㎝ ）です。

ギヤケース

- 作業１８時間毎に給油してください。
- ギヤケースには約２５ｇのグリースが給油されています。
- グリースニップルから、グリースを給油してください。
- グリースは共立純正ギヤケースグリースを使用してください。
  共立純正ギヤケースグリース
  部品番号：Ｘ６９５－００００２０

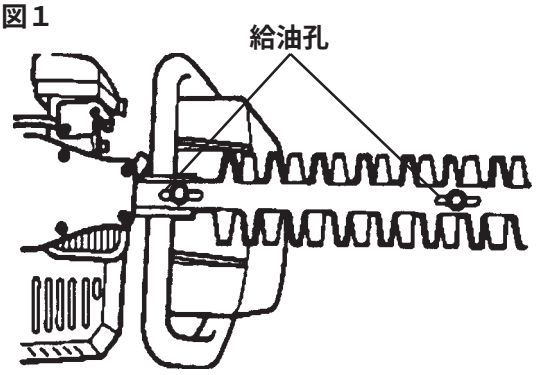
マフラの点検

- マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。

⚠ 注　意

不用意に刈刃に触れてケガをすることがないように手袋をして作業してください。

図１



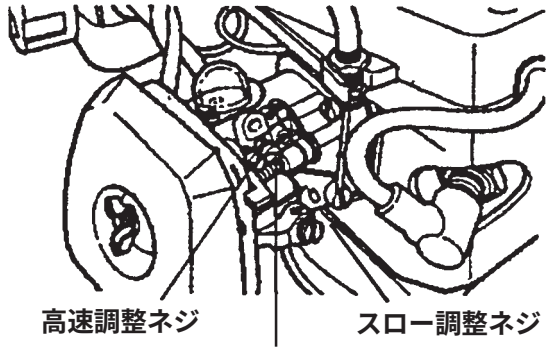
⚠ 注　意

アイドリング（低速回転）のときに刈刃が動かないようにキャブレタを調整してください。
思わぬケガをすることがあります。

重　要

・工場出荷時にキャブレタは最高の性能が引出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの調整をしてください。
　1．エンジンが始動しない
　2．エンジンが停止する
　3．アイドリング時も刈刃が動いている
・スロー調整ネジ、低速調整ネジ、高速調整ネジを締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。

図２



刈刃の手入れ

重　要

上下の刈刃のすきまは出荷時に刈刃下のボルトで調整してあります。
自分で調整しないでください。

刈刃の清掃

刈刃に樹脂のような汚れが付いた場合は軽油とオイルを１：１の割合で混合したもので、刈刃の汚れを洗い落としてください。

刈刃の給油

作業４時間毎に給油してください。
刈刃を固定しているボルトの部分にオイルを２、３滴たらしてください。（図１参照）
刈刃の刃先が摩耗したり、上下の刈刃のすきまがくるうと切れ味がわるくなります。
その場合、お買い求めの販売店にご相談ください。

キャブレタの調整

キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

スロー調整ネジ

●アイドリング（低速回転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のスロー調整ネジを回して調整してください。（図２参照）
　スロー調整ネジを右に回して刈刃が動きはじめるところから１／８回転程度戻してください。

低速調整ネジ

●燃料と空気の混合割合が適正でない場合は回転不調となります。
●回転不調の場合は、低速調整ネジを静かに回して調整します。（図２参照）
　調整の標準は、低速調整ネジを全閉にしてから、反時計方向へ$1^{1}/_{2}$～２回転戻してください。

高速調整ネジ

●回転不調の場合は、高速調整ネジを静かに回して調整します。（図２参照）
　調整の標準は、低速調整ネジを全閉にしてから、反時計方向へ$1^{1}/_{2}$～２回転戻してください。
●調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

故障診断と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

●燃料タンクに燃料が入っていること。

●ストップスイッチが始動の位置にあること。

トラブル	故障診断	原　因	対　策
エンジンが始動しにくい また回転が変動する	オーバーフローパイプに燃料がくる	●燃料の変質 ●キャブレタ不良	●交換 ●販売店へ
	オーバーフローパイプに燃料がこない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタ内部の固着	●清掃か交換（11ページ） ●販売店へ ●販売店へ
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	●燃料の変質 ●電極の隙間が正しくない ●カーボンが付着している ●電気的障害	●交換 ●交換（12ページ） ●交換（12ページ） ●販売店へ
エンジンが始動しない		●電気的障害 ●キャブレタ不良、内部固着 ●エンジン内部の故障	●販売店へ ●販売店へ ●販売店へ
エンジンは始動するが加速できない		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●キャブレタ調整不良 ●排気口／マフラ出口が詰まっている	●清掃か交換 ●清掃か交換（11ページ） ●販売店へ ●調整（13ページ） ●清掃
エンジンが停止しない		●ストップスイッチ不良	●応急停止（9ページ）後、販売店へ
アイドリング状態で刈刃が動く		●キャブレタ調整不良 ●クラッチバネ破損	●調整（13ページ） ●販売店へ
エンジンが停止する		●キャブレタ調整不良 ●電気的障害	●調整（13ページ） ●販売店へ

保　　管

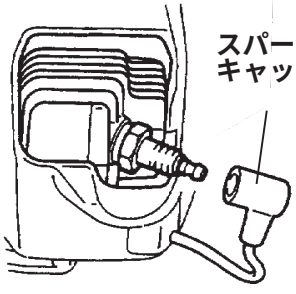
⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

図1



長期保管（60日間以上）

機械を長期間（60日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

●混合した燃料は完全に使いきり、キャブレタや燃料パイプに残っている燃料も低速で運転して使いきってください。

●機械の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。

●スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。

●刈刃は刈刃カバーを付けてください。

●必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図1参照）

●機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。

仕　　様

項目	単位	形式名
		HT1500
質量 　本体（燃料除く）	ｋｇ	４．７
容量 　燃料タンク	Ｌ	０．３
刈刃 　形式 　歯車減速比および潤滑剤 長さ	 ｃｍ	 減速比　５．８８ 共立純正ギヤケースグリース（部品番号：X695-000020） ５０
外形寸法 　長さ×幅×高さ	ｃｍ	９６×２３×２０
エンジン 　形式 　排気量 　最大エンジン回転数 　キャブレタ形式 　点火方式 　スパークプラグ 　始動方式 　動力伝達方式	 ｍＬ ｒ／ｍｉｎ	 空冷２サイクル単シリンダ ２１．２ １０，０００ ダイヤフラム式 フライホイールマグネト電子点火；ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ 自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　　;[５０：１] ・２サイクルエンジンオイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ　;[２５：１]

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-000 13 1
X750224-980 1
0404n 0455 ES

© 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。